

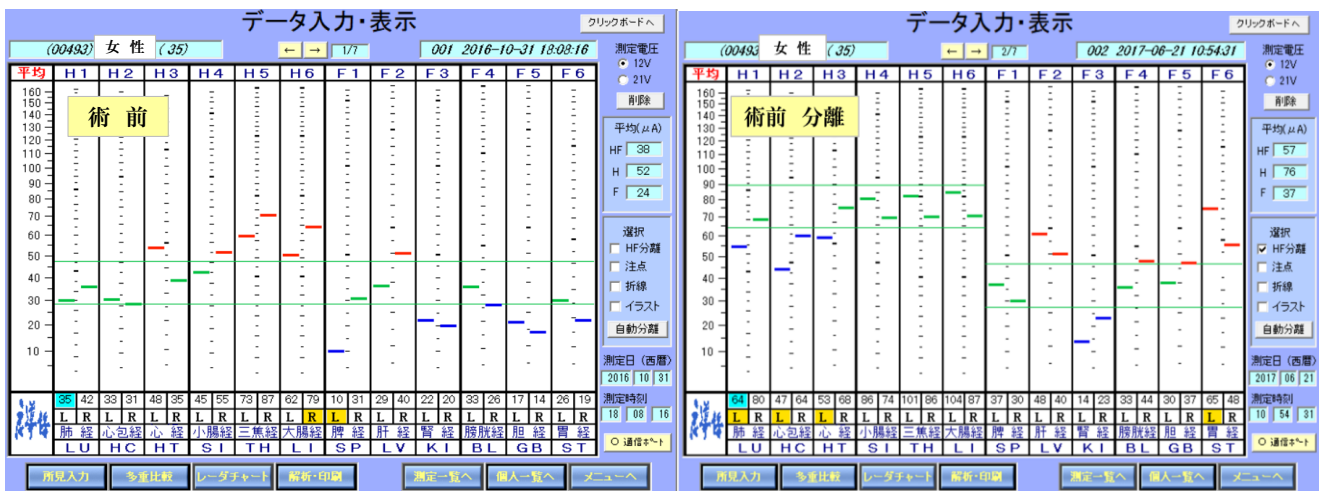
チャート診断と良導絡治療 (客観的数値の重要性)

良導絡専門師
鈴木 利也

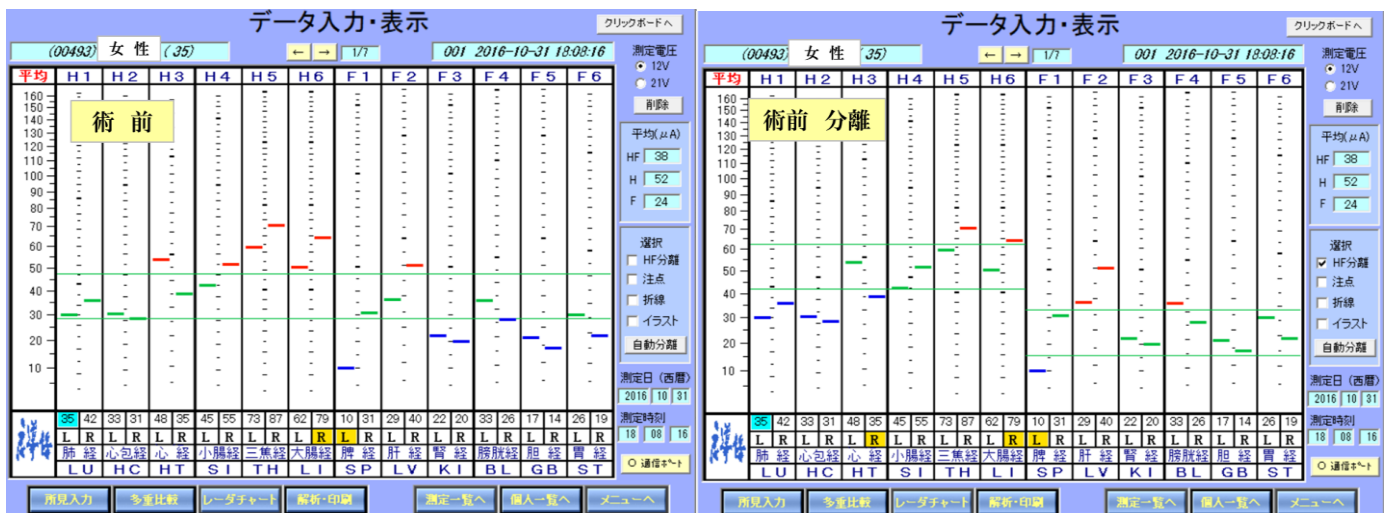
私たち鍼灸師が患者様の体調を客観的に知る事の出来る唯一の検査法が良導絡自律神経測定です。西洋医学と東洋医学の両面から診ることが出来、誰が測定しても同じ検査結果を出す事が出来ます。カルテをもとに治療点を導き出し刺激量を把握して施術をして行くことが大切です。下記のチェックポイントを考えながら良導絡チャートを見ていきましょう。

- ★左右差、H・F分離、拡大測定を積極的に使しましょう
- ★術前診断、術後評価のチャートをとる
- ★日頃から良導絡測定をして個人のチャートパターンを把握し比較をする
- ★チャートの興・抑、左右差より問診、体表診察、筋硬結、筋緊張、運動動作などから読み解いていく

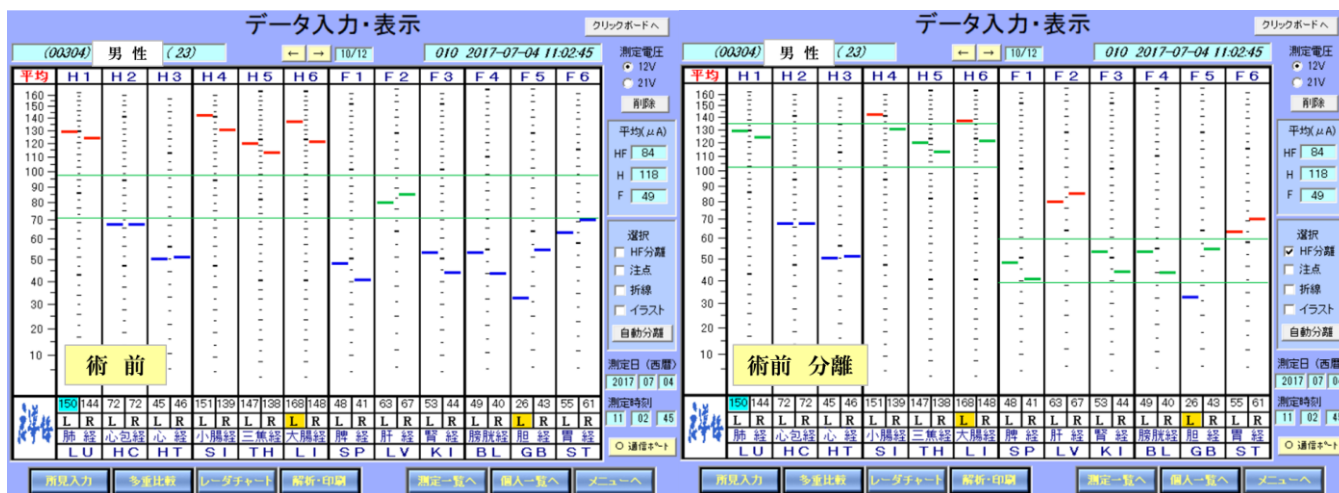
症例① 肩こり、腰痛、不整脈、妊娠中の悪阻



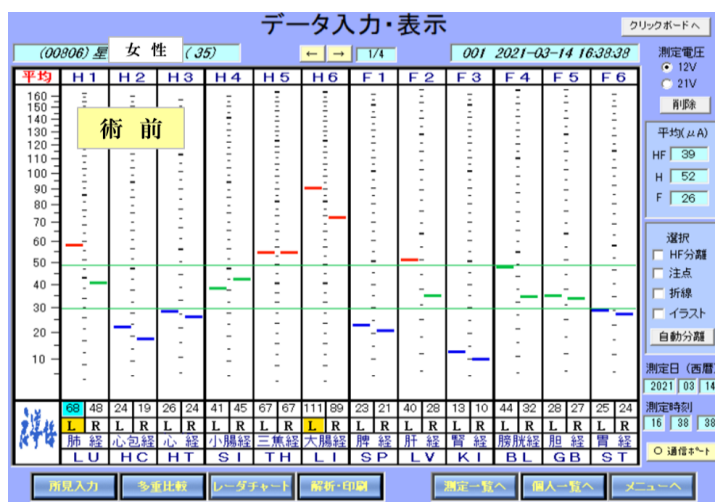
症例①-2 右胸郭出口症候群による上肢のしびれ痛み、腰痛



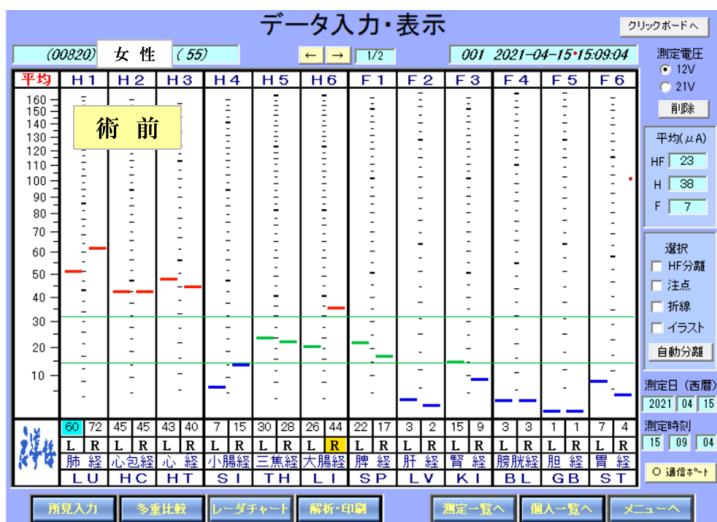
症例② 大学柔道部：動悸、心因性嘔気症、半月板損傷、前十字靭帯損傷による膝関節痛



症例③ 腰痛（産後1年）腰部から仙骨部痛（前後屈痛、持続坐位および起立時痛）
手指、手背～前腕部および肩甲間部に湿疹肌荒れ、むくみ



症例④ 右肩関節周囲炎（夜間痛、肩関節可動域減少、外転・屈曲 45° 回旋運動不能）



実技動画チャート

